

第1章 コンセプトと事業活動・施設構成

1. 美術館のコンセプト

川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会の答申を踏まえ、美術館には下記の三つのエリアを設けます。

美術館のコンセプト

**市民が集い交流し、創造力や文化、歴史、産業を育む
全く新しい文化芸術の創造・発信拠点**



美術館の三つのエリア

アートエリア ～美術館機能～

- ・展示は寄贈寄託作品を中心とし、市内・県内の作家や本市所縁の作品を市内外に広く発信します。
- ・本市の歴史、文化、寄贈作品が収集された時代等を作品とともに展示解説します。

ものづくりエリア ～産業とアートのコーディネート機能～

- ・川口の歴史あるものづくり産業とアーティスト等をマッチングします。
- ・産業とアーティスト等とのコラボレーションによる製品開発、市産アート作品の販路開拓等、地域の活性化につながる新たな経済活動を創出します。
- ・アーティストや産業の情報を収集し、データベースとして活用します。

イベントエリア ～新しい表現に対応した展示ホール～

- ・映像や空間そのものを表現とする新しいアート作品に対応します。
- ・展示がない期間は、コンベンション、パーティー等に活用します。
- ・エンターテインメント性を持ったイベント等への貸出を行います。

2.三つのエリアのコンセプトと事業活動・施設構成

(1) アートエリア

ア アートエリアのコンセプト ～川口の美～

100万人を超えるともいわれる人口を誇った江戸は、世界最大規模の消費地でもありました。高まり続ける日常物資の需要に応えるべく、川口では舟運を利用した江戸向けの商品の開発、生産や流通が盛んになりました。この頃から、川口の代名詞ともなっている鋳物工業や植木産業などが発展しはじめ、「ものづくりのまち」「職人のまち」としてのその礎が築かれました。

江戸の消費は川口に大きな富をもたらしました。その富は川口に暮らす人々にゆとりと心豊かな生活をもたらしたばかりでなく、芸術作品のコレクターを生み、様々な美術品が川口に集まってきました。

しかし、これら貴重なコレクションは世代が変わる度に少しずつ散逸し、いずれは無くなってしまいますが、市には適切な管理・保存・展示を行う施設がないために、寄贈を受けられない状況が続いています。

本市では、これらを散逸させないためにも寄贈を受け入れる体制＝「収蔵施設」「展示施設」が必要になっているのです。

歴史は絶え間なく進んでいきます。その歴史に失われてしまう繊細なもの、すなわち、本市及び本市周辺地域固有の風土や歴史、そこで培われた産業や文化こそが「川口の美」であると定義し、本市に寄贈された市民共有の財産を守り、伝える「アート」エリアを計画します。

イ アートエリアの事業活動

【収集保存】

寄贈寄託作品を中心としたコレクションの拡充を積極的に行うとともに、川口らしい収集方針（コレクションポリシー）の策定を目指します。

市が所蔵する作品等を安全な環境の下で適切に保存管理を行い、寄贈寄託の受け皿の役割を担います。

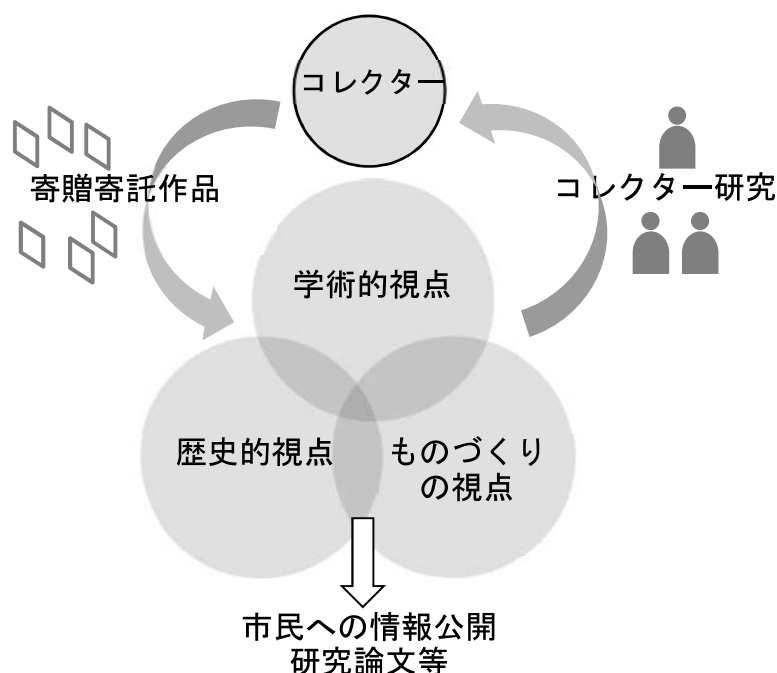
また、専門知識を有するスタッフを配置し、貴重な作品の長期的な保存管理に努めます。

【調査研究】

寄贈寄託作品、本市のアート、ものづくり文化等について、様々な視点から、調査研究を行います。同時に、本市の文化芸術資産の価値を高め、後世に伝えるため、作品を寄贈いただいたコレクターの研究も行います。

国内外の美術動向や展覧会、第一線のアーティストなどに関する情報収集及び研究を行い、その成果を展覧会企画への反映、定期刊行物、ホームページ、SNS、研究論文などを通じて、広く発信します。また、他の美術館や研究機関との研究成果の共有、連携にも積極的に取り組んでいきます。

■調査研究イメージ



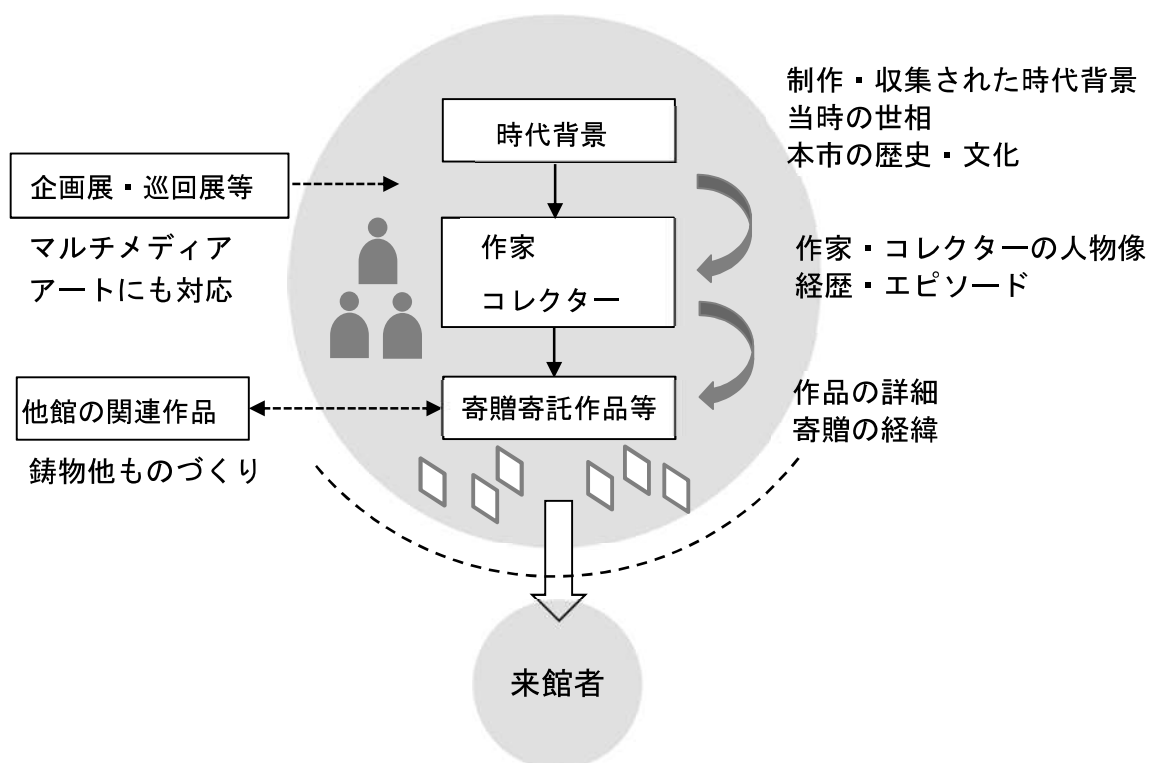
【展示公開】

寄贈寄託作品等が制作、収集された時代背景を本市の歴史や文化とともに紹介し、市内・県内の作家や本市所縁の作品を市内外に広く発信します。また、作家やコレクターの人物像、作品の詳細、市に収蔵された経緯などをわかりやすく紹介し、地域性を重視した展示を行います。

本市のものづくりをテーマとした展覧会、本市所縁のアーティスト展、他館との連携・共催による企画展、コレクション巡回展などを実施します。

また、鑑賞補助ツールとしてIT技術や映像技術を取り入れたデジタルコンテンツ等による鑑賞方法を検討します。

■展示公開イメージ



【教育普及～アトリアとの連携～】

アートギャラリー・アトリアは、身近な美術への入口、気軽にアートと出会う施設として、市民の作品発表や、講座やワークショップ等、教育普及の施設として活かし、美術館との事業の分担を明確化します。

一方、美術館では、高度な展示設備のもとで、より深い鑑賞力を養うことができることから、学習とアート鑑賞のボーダレスな事業の可能性についても検討します。

また、美術館とアトリアの共通チケットの発行や、両館を結ぶ動線の街並アートデザインなども検討します。

■主に美術館で行う教育普及活動例

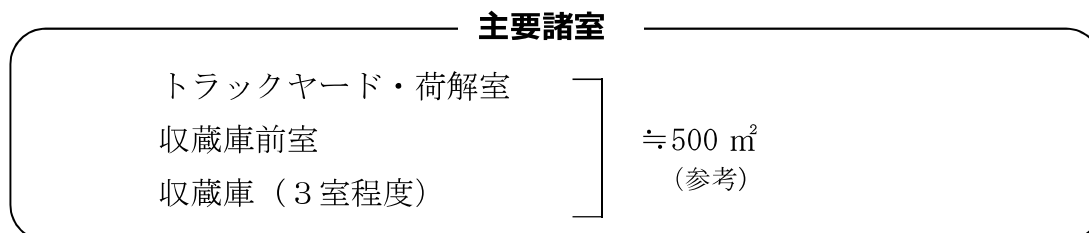
- 作品を理解し親しめるようにするわかりやすい解説
(鑑賞補助ツールの活用、学芸員によるギャラリートーク 等)
- 専門家等によるイベントの開催
(学芸員や作家、コレクターによる講演会やセミナー 等)
- 学校・教育機関との連携による生徒や教員のための専門プログラム
(社会科見学、教員セミナー、学生インターンシップ 等)
- 本市所縁のアートやものづくりへの理解を深める機会
(リファレンスコーナーの映像デジタルコンテンツによる所蔵作品やアーティスト、及び市内施設の情報提供 等)

■主にアトリアで行う教育普及活動例

- 市民の創作活動の支援
(市民が制作したアート作品の展示、創作体験、ワークショップ 等)
- 展示公開作品への理解を深める美術講座
(講演会、鑑賞講座 等)
- 創作工程を見学できる機会
(公開制作、アーティスト・イン・スクール 等)
- 専門的技術を学ぶ機会
(実技講座、技術指導 等)
- アートを創造・発信する人材育成
(ボランティア、友の会 等)
- 学校・教育機関との連携による児童・生徒の鑑賞体験や創作体験
(作品鑑賞教室、移動美術館 等)

ウ アートエリアの施設構成

【収集保存】



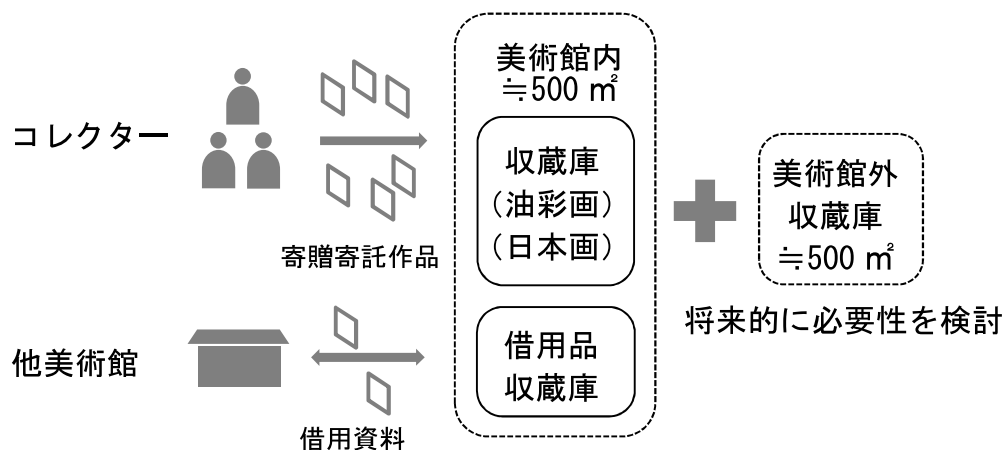
【トラックヤード、荷解室、収蔵庫、収蔵庫前室等】

寄贈寄託作品等の安全な保存管理に必要な機能を備えた諸室を整備します。温湿度管理空調に配慮した搬出入動線を設定し、日本画、油彩画、他の美術館等からの借用資料にも対応した異なる湿度調整が可能な複数の収蔵庫、準備室等を整備します。

火災や地震、風水害に対する安全対策、監視カメラや入退場管理システムによるセキュリティ対策、恒温恒湿を保持する空調環境等に配慮した整備計画とします。また、省エネに配慮した空調設備、照明設備等を検討します。

収蔵庫については、特に貴重な作品を本施設に保管し、将来的に収集する作品資料を含め、館外収蔵庫の整備の必要性についても検討します。

■収蔵庫イメージ



【調査研究】

主要諸室

事務・学芸員室
会議室
職員控室・物品庫

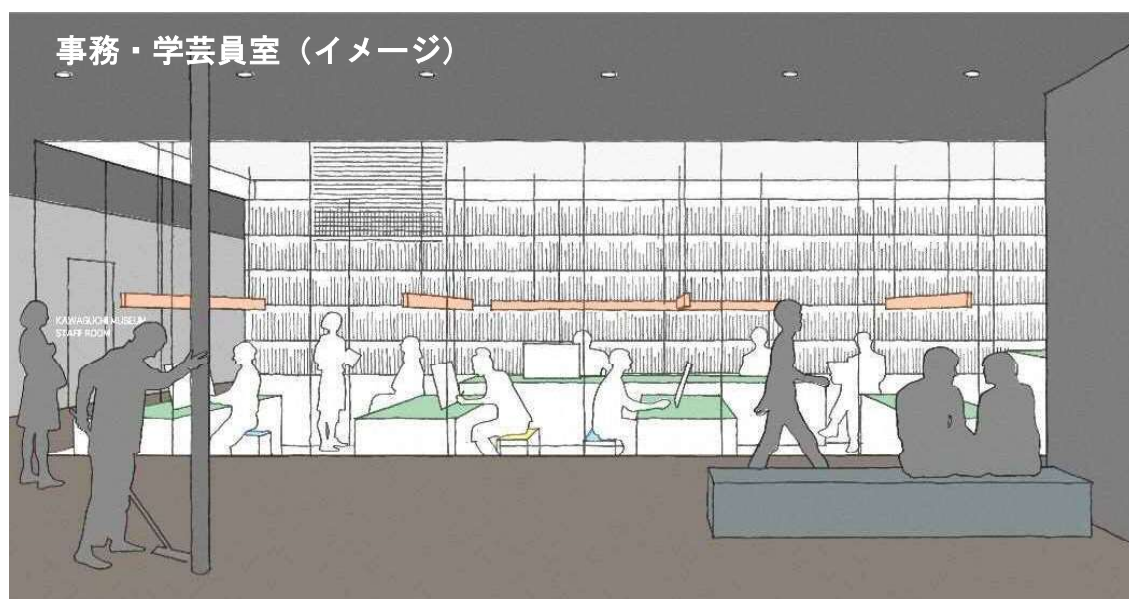
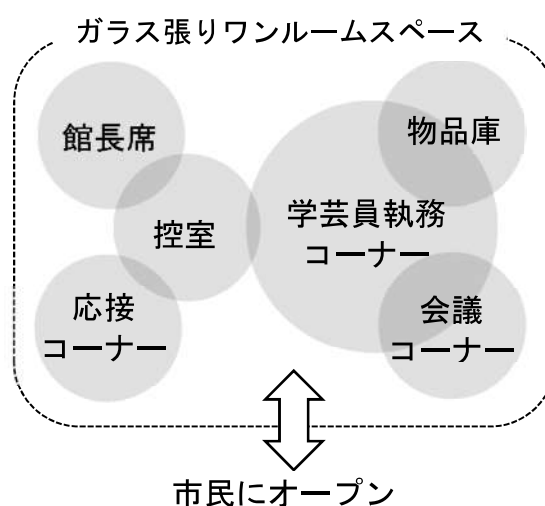
≒150 m²
(参考)

【事務・学芸員室・会議室・物品庫】

事務・学芸員室は開放的なワンルームスペースとし、面積の利用効率を考慮します。壁面をガラス張りにするなど、市民にオープンなワークスペースを検討します。また、物品庫には図録等の保管用に集密書架を設け、資料の蓄積を行います。

常勤の学芸員、スタッフ人員は10名程度と想定し、今後、運営方法をふまえて、必要居室の詳細を検討します。

■事務・学芸員室イメージ



【展示公開】

主要諸室

展示室（プロローグゾーン・川口の部屋）

展示準備室

アート図書館

≒1,100㎡
(参考)

【展示室】

展示公開に関する諸室の合計面積は約1,100㎡程度を想定します。イベントエリアの展示ホール（約700㎡）と合わせ、床面積の合計は1,800㎡となり、現在、市が所有する主な寄贈作品の展示が可能な規模となります。また、施設全体面積に占める展示用途利用可能な床面積の割合は41%程度です。

展示室は大きく三つのゾーンから構成されます。各ゾーンには作品に適した展示環境（照明、温湿度管理空調設備等）を整備します。

・ プロローグゾーン

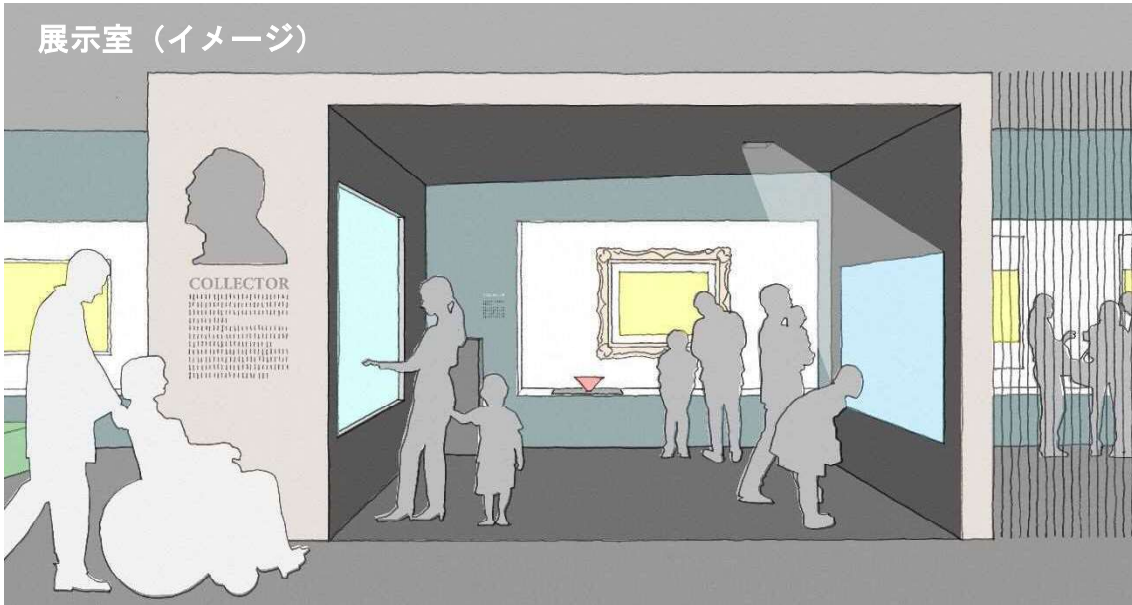
展示室の導入部分に、本市の歴史や風土、美術館のなりたち、市内で活躍するアーティスト、寄贈寄託したコレクター等について、映像等のデジタルコンテンツを活用してわかりやすく紹介するプロローグゾーンを整備します。展示動線全体のプロローグの役割を担います。

プロローグゾーンは無料とし、エントランスホールやものづくりエリアとの動線を考慮することで、「川口の美」をプレゼンテーションするスペースとなります。



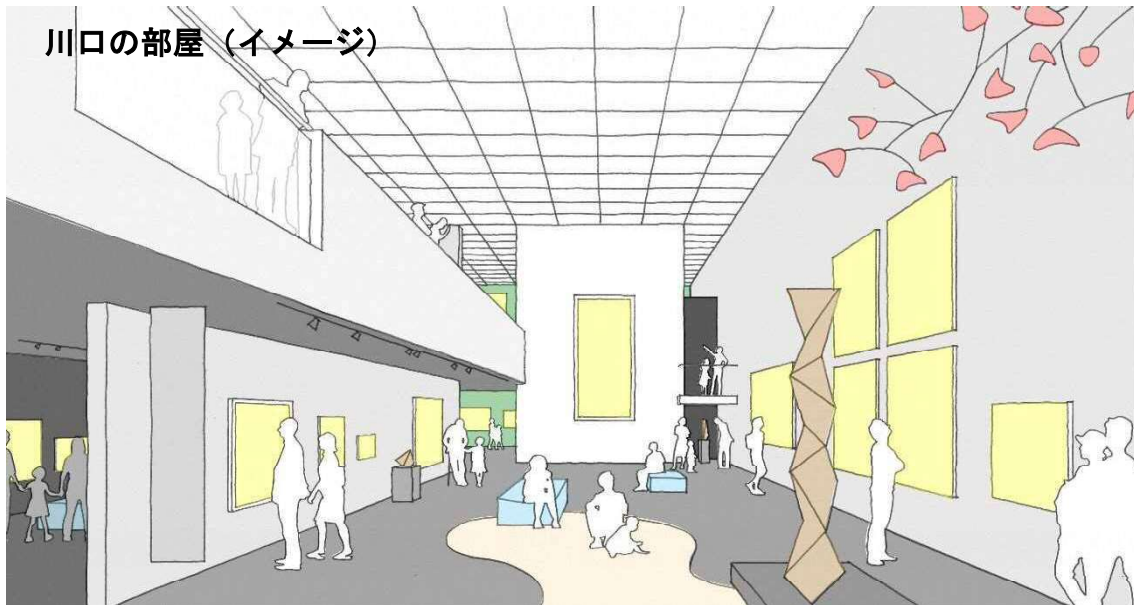
・展示室ゾーン

フレキシブルな展示空間を整備します。開放的なスペースとテーマ展示が可能な小規模な展示室を組み合わせる等の構成を検討し、様々なスタイルの展示に対応できるようにします。また、イベントエリアの展示ホールとの動線を考慮することで、大規模な企画展等の開催も可能となります。



・特別展示室「川口の部屋」

本市のものづくりに関連した作品を常設展示し、美術館の象徴となるスペースとして特別展示室「川口の部屋」を整備します。来館者動線の最も奥に配置し、落ち着いた環境で、作品を通じて川口の美を体感する場所とします。展示する作品については、寄贈寄託の他、新たに作品を制作することも含め、今後検討します。



【アート図書館】

アート図書館ではアート全般に関する美術専門書や他の美術施設資料・イベント情報を集積し、広く市民に公開するための検索端末やリファレンスコーナーを整備します。

【屋外展示スペース】

屋外スペースを活用した、彫刻作品などの展示についても検討します。

(2) ものづくりエリア

ア ものづくりエリアのコンセプト

江戸時代よりものづくりが盛んな本市は、多くの企業と職人を生み、隆盛を極め、今もなお、質の高い市産品を生み出し続けています。

ものづくりによる本市の隆盛は、美術品コレクターや多くのアーティストを生み出しましたが、産業とアートは直接交わることはなく、それぞれが独立しています。

新しい美術館では、これらものづくり産業とアーティスト等をつなぎ、新たな価値（商品・作品）を生み出すための交流や共同制作などを企画、推進します。

具体的には、二つの役割が考えられます。

一つは、新たな商品開発にアートの視点を加えることで付加価値を高めることを目指します。一例を挙げれば、鑄造技術、木型技術とデザイン性を融合した家具（インダストリアルファニチャー）などです。また、従来の商品やサービスのPR方法にアートの視点を加えることで訴求性を高めることも考えられます。

二つ目として、アートもまた市産品です。市内アーティストが生み出す作品をホテル、マンション、店舗、事務所などへ活用を働きかけることで、アート作品が売れるアーティストを増やすことです。

専門のコーディネーターを置き、産業とアート双方の活性化を目指し、「ものづくり」エリアを計画します。

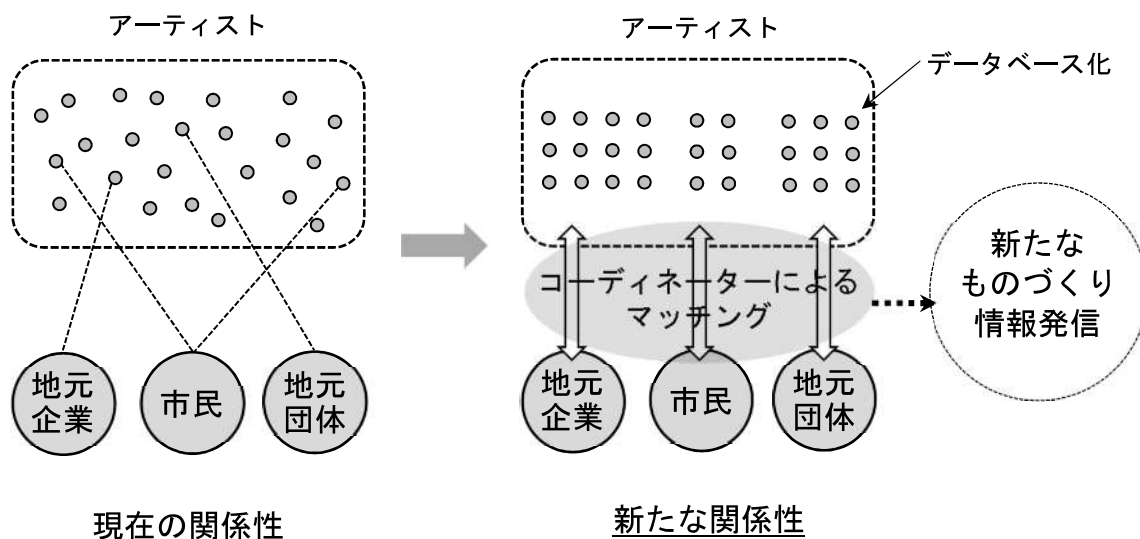
イ ものづくりエリアの事業活動

【創造支援】

市内産業とアーティスト等とのコラボレーションによるデザイン性を高めた製品開発、インダストリアルデザイン・アート等の提案や、市産アート作品の販路開拓を行い、地域経済の活性化に繋がります。

専門の産業コーディネーターが常駐し、本市所縁のアーティストや市内産業の情報の収集活動を行い、データベース化し、アーティストと市民や企業との迅速なマッチングや、ものづくりのプロジェクトにつなげます。

■アーティストと市民・企業等との関係性（イメージ）



【情報発信】

アーティストや市内産業の情報は、ライブラリーとして公開します。また、開発された製品は、インターネット、SNS等を使い積極的に市内外に発信・PRしていきます。

ミュージアムショップでは、展示作品に関連するグッズ（図録、書籍、ポスター、絵葉書、文房具、Tシャツ等）の他、新たに開発するアーティスト等とのコラボレーショングッズ等の販売も行います。

ウ ものづくりエリアの施設構成

主要諸室

- ショールーム（マッチングカウンター併設）
- ミュージアムショップ
- ものづくりライブラリー

≒200m²
(参考)

【創造支援】

【ショールーム】

アーティスト情報や市内産業情報を展示するプレゼンテーションルーム、地元企業や市民とアーティスト等のマッチングカウンター、産業コーディネーターの執務コーナー等から構成されるショールームを整備します。エントランスホールやアートエリアのプロログゾーンとの動線を考慮することで、新たな創造をプレゼンテーションするスペースとなります。

【情報発信】

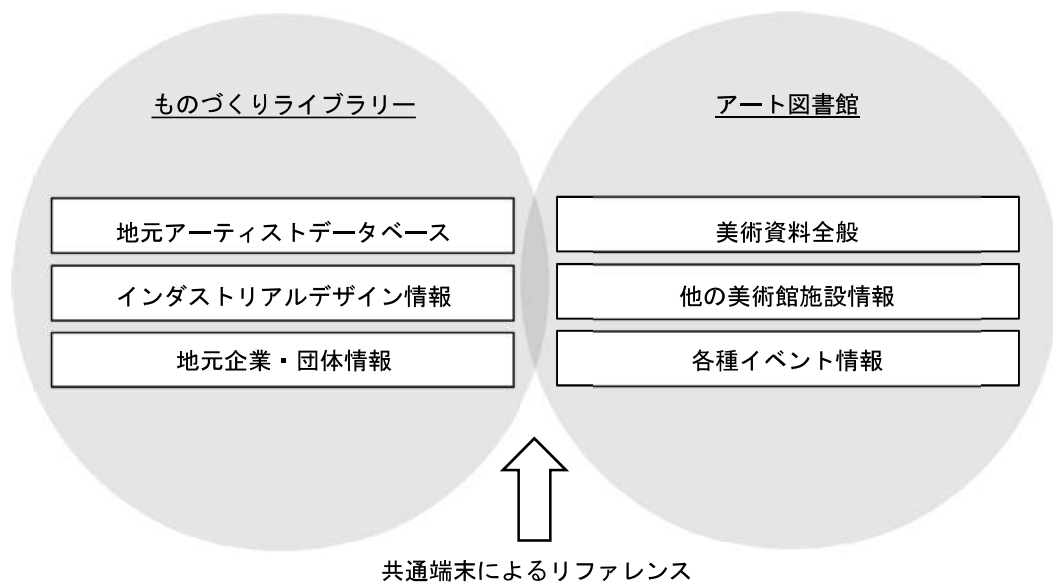
【ミュージアムショップ】

ミュージアムショップをショールームに併設します。来館者が気楽に訪れることができるようエントランスからの動線に配慮します。

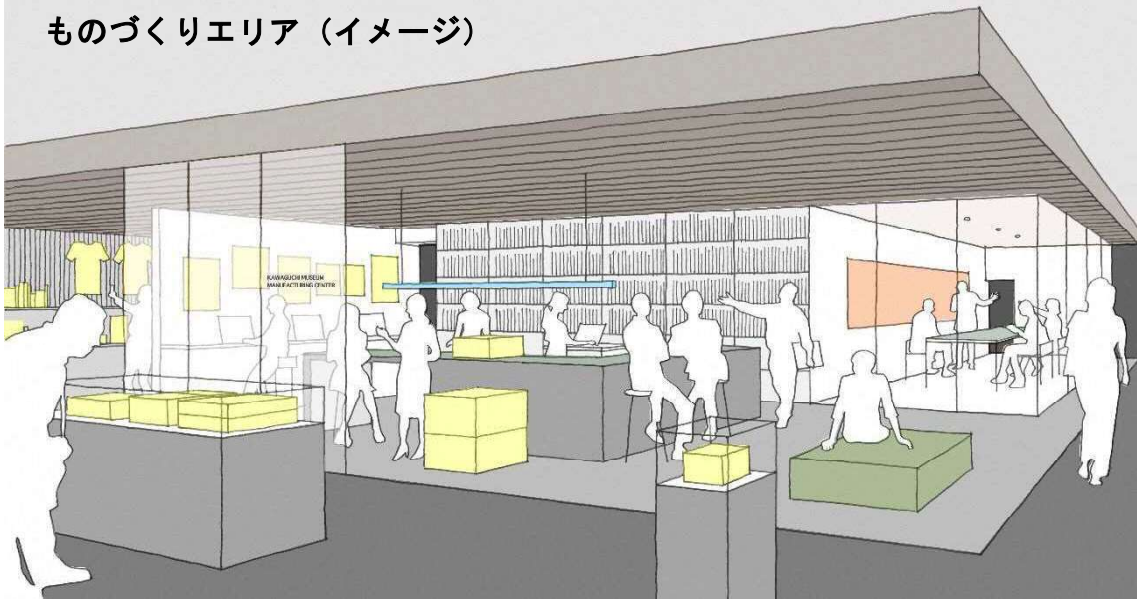
【ものづくりライブラリー】

ものづくりエリアとアートエリア双方の情報データベースをボードレスに検索できるよう、アート図書館と共通端末によるリファレンススペースをもったライブラリーを整備します。アート図書館との動線に配慮します。

■ものづくりライブラリーとアート図書館の関係（イメージ）



ものづくりエリア (イメージ)



(3) イベントエリア

ア イベントエリアのコンセプト

近年、メディアアートなど、映像を使った新しい表現方法が世界的に主流になりつつあり、海外のアートフェアなどでも、メディアアート系のアーティストを紹介するブースが数多く見られるようになりました。しかしながら、国内の美術館で、これらメディアアートの規模感や表現に対応できる美術館はまだ少数です。

映像表現とともに、大きなオブジェの展示、空間全体を使ったインスタレーションなど、様々な表現方法に対応した展示室を作ることは、新しい美術施設としては必須です。

ただし、これらアート作品は、常に展示するものではないことから、本施設のイベントエリアは、メディアアートへの対応やインスタレーション展示の他、映画、演劇、音楽コンサート、コンベンション会場、パーティー会場など、本市に不足している施設を補完できる多目的なエリアとして計画します。

イ イベントエリアの事業活動

[交流]

イベントエリアには、メディアアートやインスタレーション、映像や空間そのものを表現とする新しいアートに対応した展示ホールを設置します。展示ホールは、アート作品の展示だけでなく、市民や企業が様々なイベントや事業に多目的に利用できるホールとして、市民が集まり、交流するエンターテインメント性のある場を提供します。

展示利用のない時は、広く市民に貸し出しを行い、コンベンション会場やパーティー会場等として、多目的に活用できるようにします。

■展示ホールの活用事例

- ・展示活用
 - 展示室として使用。マルチメディアアート、インスタレーション、プロジェクションマッピング等の映像アートにも対応
- ・展覧会連携活用
 - レセプションパーティー、映画、演劇、音楽コンサート、講演会 等
- ・イベント活用（市民、企業・団体に貸出し）
 - コンベンション会場、パーティー会場、セミナー、会議、結婚式、等

[集い]

アートカフェ・レストランを展示ホールに併設します。誰もが気軽に立ち寄ることができ、アートに触れながら交流する機会を生み出し、市民が集う憩いの場となります。

ウ イベントエリアの施設構成

主要諸室

| | | | |
|------------------|--------------------|---|-----------------------------|
| ○展示ホール | ≒700m ² | } | ≒1150m ² (参考) |
| ○バックヤード | | | |
| ○アートカフェ・レストラン・厨房 | ≒150m ² | | |

【交流】

【展示ホール】

700m²程度の規模の展示ホールを整備します。ホールの形状や付帯設備、利用用途などにもよりますが、300～500名程度の利用が可能となります。天井高さは7.0m程度が望ましいと考えます。

様々な用途への活用を考慮し、平土間（通常時は舞台がなく、客席も固定ではない）とします。舞台の昇降設備や、備品類の収納スペースなどの付帯設備の仕様は今後詳細な検討を行います。

展示環境（照明、温湿度管理空調設備等）、及び音響設備を整備します。また、ホールを分割して利用できる仕様を検討します。

アートエリアの展示室と連携しやすい配置とし、施設全体を一体活用した展覧会等が実施できるよう配慮します。イベント時のホワイエとしてエントランスホールを活用できるよう動線に配慮し、面積の利用効率を考慮します。

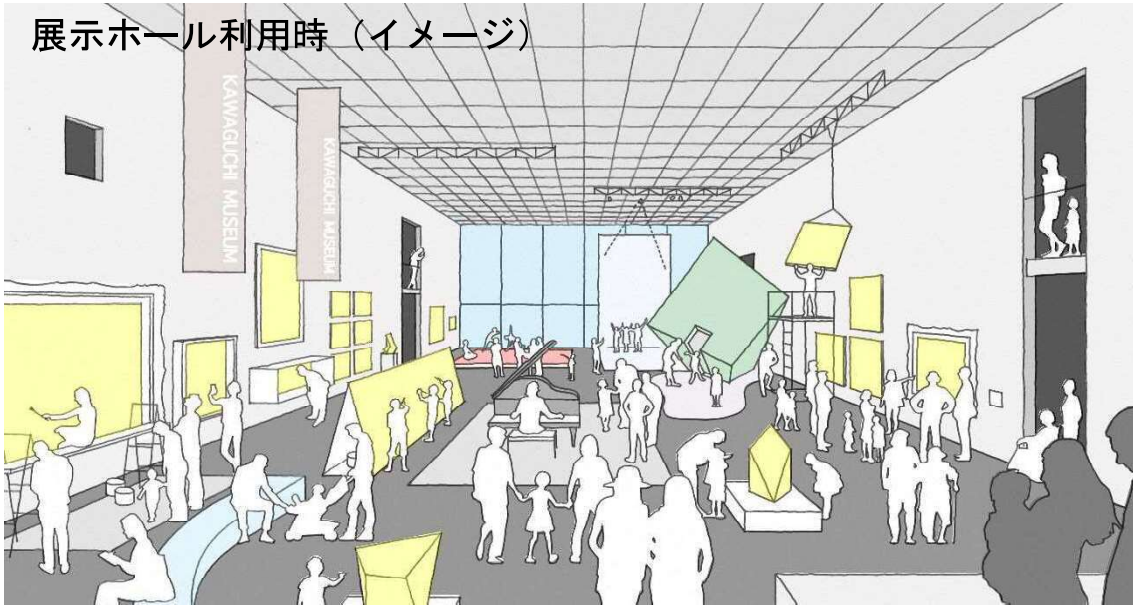
【集い】

【アートカフェ・レストラン】

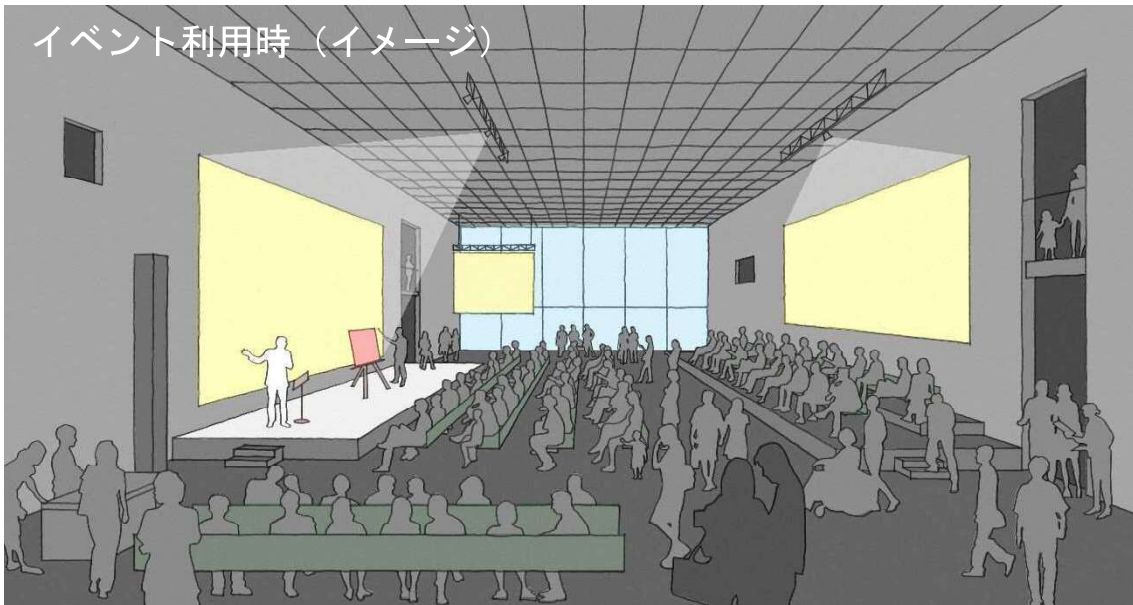
誰もが気軽に立ち寄ることができ、アートに触れながら交流する場として、150m²程度のアートカフェ・レストランを整備します。来館者以外の利用も想定し、街並に向けて解放された配置とします。

また、展示ホールで飲食を伴う利用がある時はサーバ・ケータリングのスペースとして活用できるよう、展示ホールとの動線に配慮します。客席、厨房設備の詳細な規模、仕様に関しては今後検討していきます。

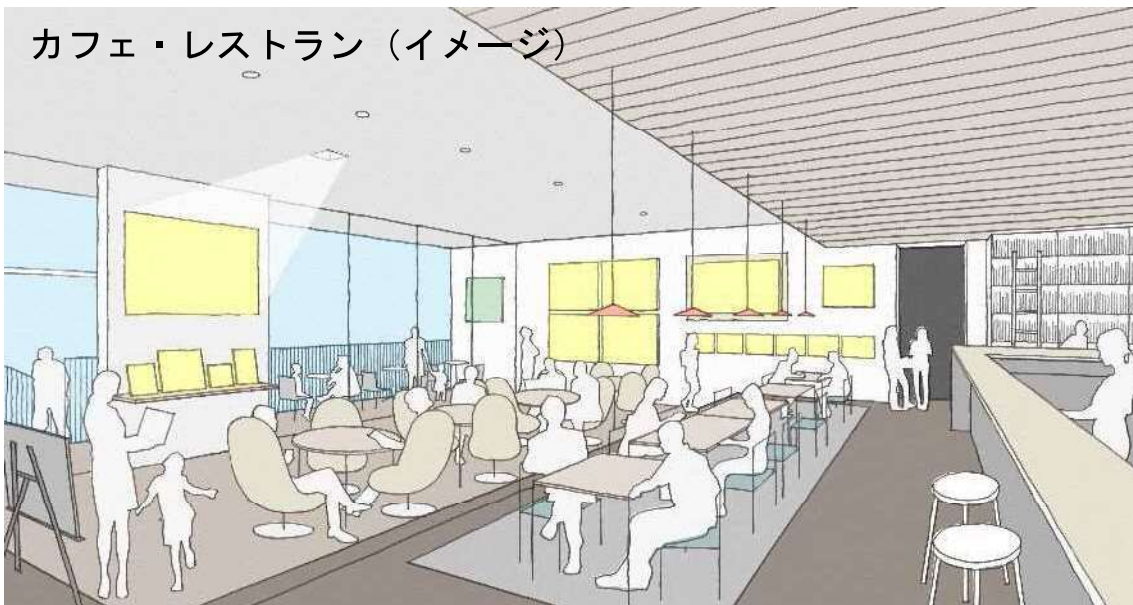
展示ホール利用時（イメージ）



イベント利用時（イメージ）



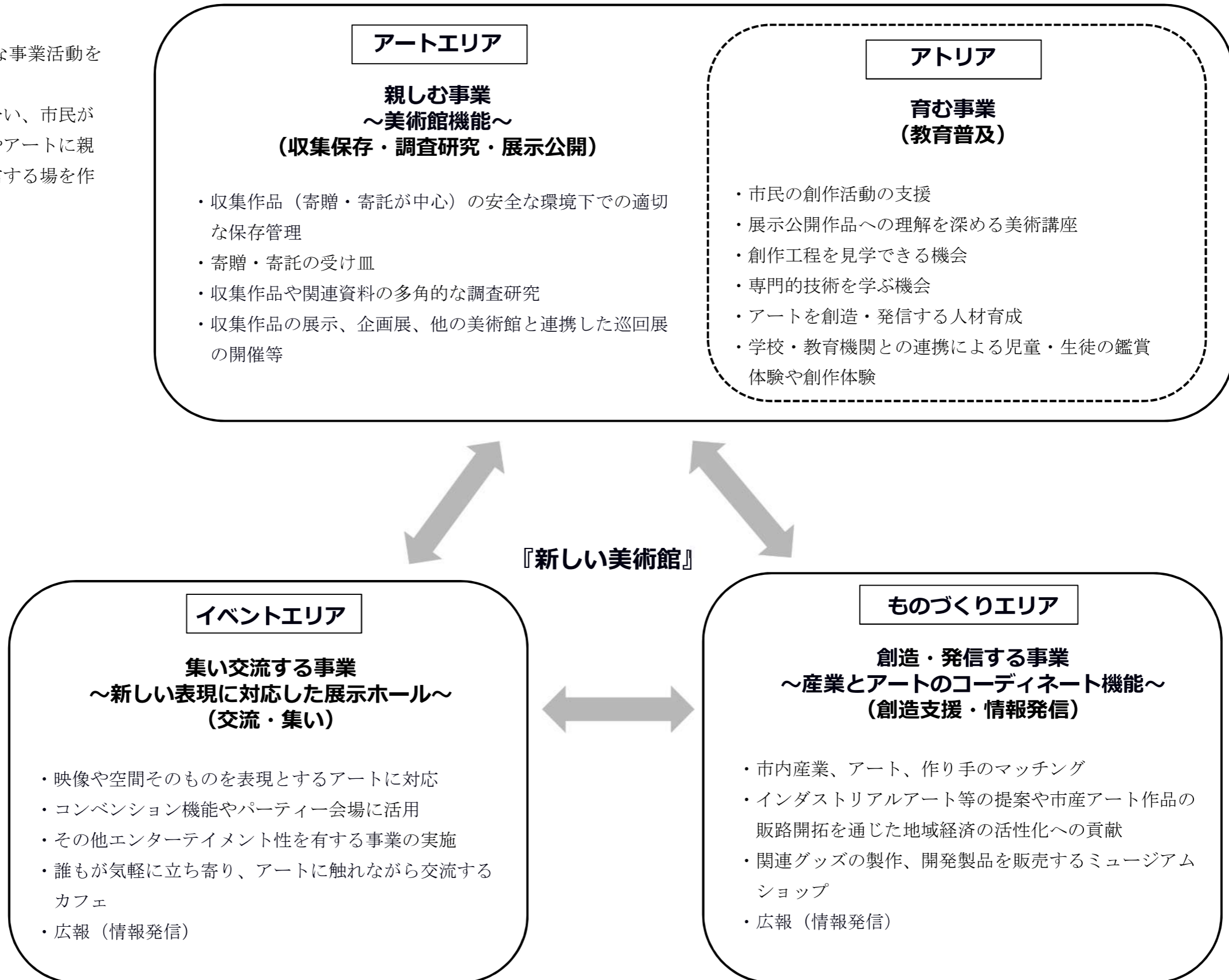
カフェ・レストラン（イメージ）



3.三つのエリア事業概念図

三つのエリアはそれぞれ特徴的な事業活動を行います。

各エリアの事業は互いに連携し合い、市民が集い、交流し、川口のものづくりやアートに親しみ、新たな創造を生み出し、発信する場を作り出します。



4.市内の文化施設、地域との連携

(1) 市内の文化施設との連携

市内の様々な施設と積極的な連携を行います。文化財施設、音楽施設、映像施設等、各施設の特徴を活かして連携することで、本施設を地域単位のアートイベントの拠点として活用し、地域のものづくり文化の再発見、文化価値向上につなげます。

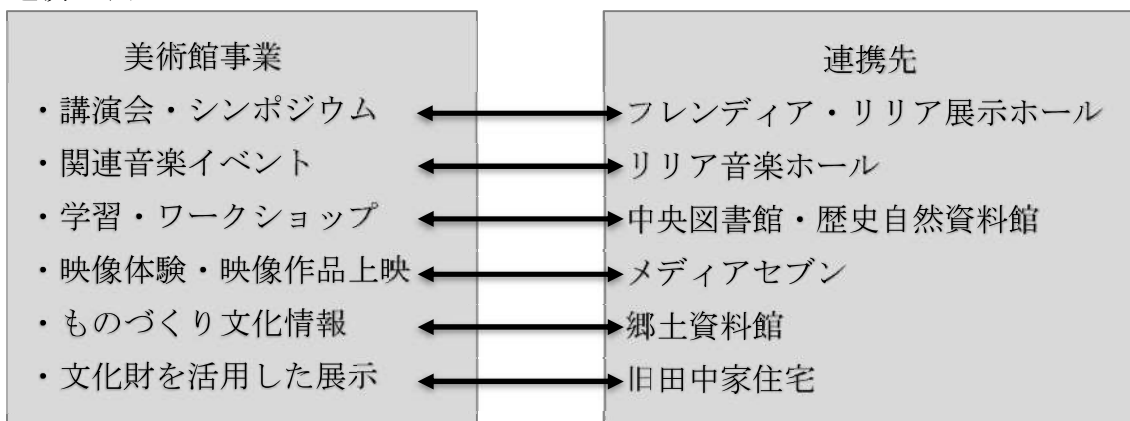
■人材交流

各施設のスタッフや学芸員が施設、組織を超えて積極的に交流し、ミーティング、ワークショップ、研修会などを行える環境を整え、スタッフのスキルアップにつなげます。

■機能連携～共通テーマイベント

他の施設の専門的機能と連携した共通テーマのアートイベント等を実施し、アートによる地域ネットワークの構築を試みます。

連携の例



■回遊性の確保

共通チケットの発行など、各施設をつなぐ回遊性のある事業の検討を行います。また、情報を一元化して発信し、統一イメージの広報活動を検討します。

(2) 市内の企業や団体・地域との連携

市内の企業や各種団体と連携・協力し、アートを活用して、地域経済の活性化につなげる活動を行います。地域密着のアートイベント、コレクターや企業が所蔵するアート作品や製品を活用した展覧会等、多角的な連携を検討します。

(3) 市民との連携

利用者、運営スタッフ、外部有識者などの意見を幅広く取り入れるとともに、市民ニーズの把握に努め、時代に即した柔軟な施設運営を行います。

■一般市民

多くの市民が気軽に訪れることができるような展示やイベントの企画を行います。展示ホールは市民が様々な用途に活発に利用できるよう弾力的な事業展開を検討します。また、民間施設をアートイベント会場として活用するなど、アートによるまちづくりを進めます。

■ボランティア・友の会など賛助会員

市民が施設の活動に積極的に参加し、運営に高い関心を持てる制度作りを行います。定期的な意見交換会やセミナーの開催、施設使用料の優遇、イベントの優先チケット等の特典を検討します。さらに幅広いスポンサー獲得のための方策を検討します。

■美術愛好家

愛好家には積極的に情報提供を行い、繰り返し訪れやすいよう、企画のバリエーションや展示更新のサイクルなどを検討します。

■情報発信

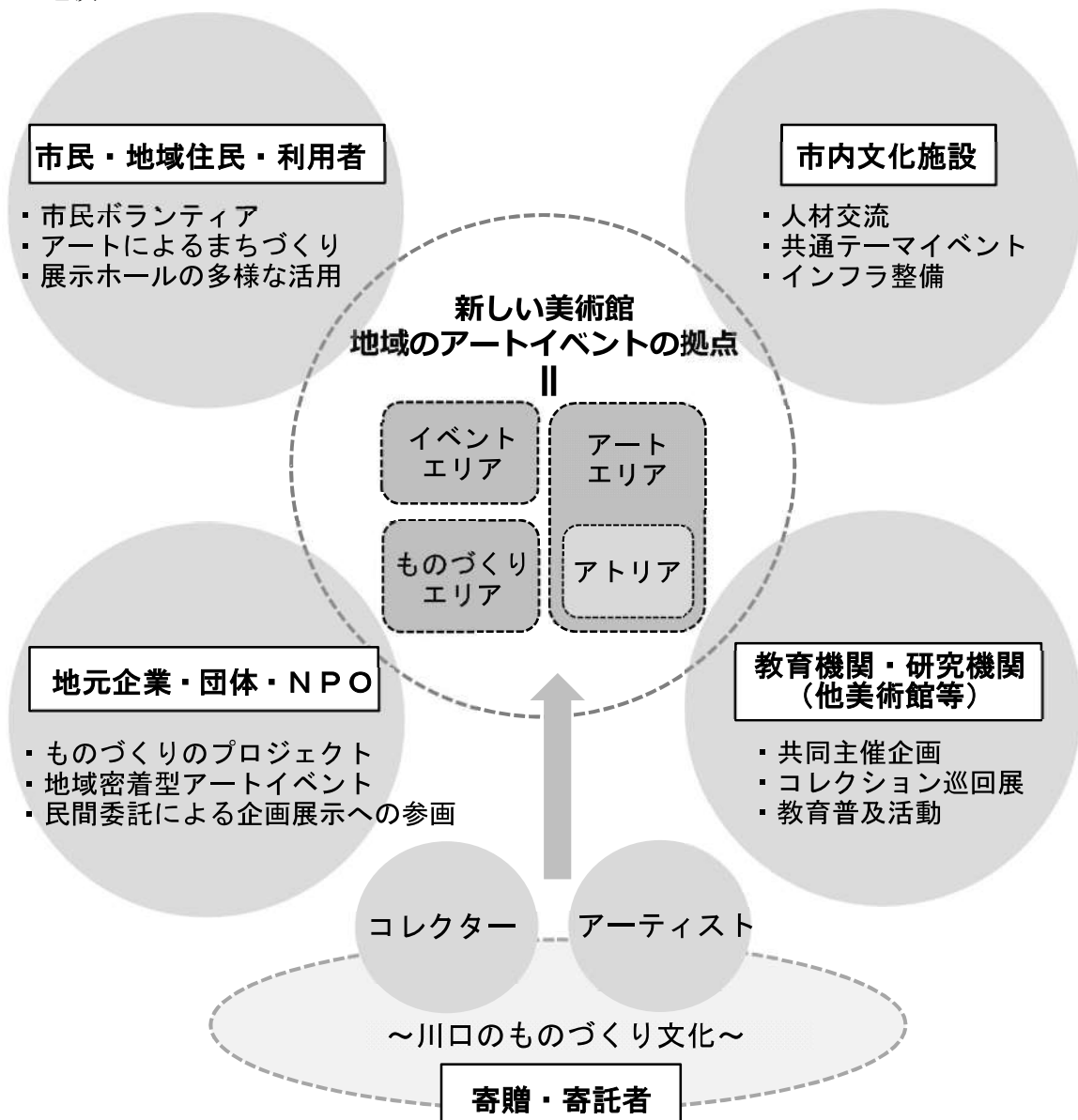
市内外に向けて積極的な情報発信を行うとともに、市民をはじめとする来館者が、SNS等で容易に情報発信できるよう、写真撮影可能なエリアを多く設けるなどの工夫をします。

(4) 市外の美術館や学校・教育機関との連携

市外の美術館・博物館と作品の相互貸し出しや、共同主催企画展・コレクション巡回展の実施、入場料割引制度等を検討し、広域的連携を図ります。

また、アトリアを中心に、小中高校など学校教育と連携し、本施設の本格的な環境での鑑賞プログラムや美術教育を実施します。大学生や社会人に対しては、地域の文化に根ざした学習プログラムを提供し、専門分野を超えて学生・研究者が交流・連携できる環境づくりを行います。

■連携イメージ



5. 広報活動

本施設の活動を中心に、市内のアート情報の発信を積極的に展開します。パンフレットやポスター、定期刊行物などの印刷媒体、ホームページ、メール、SNSなどの電子媒体の他、メディアへのパブリシティなどを通して、幅広い層に向けた広報を行います。

また、外国人向けに多言語で情報提供を行うなど、新たな観光拠点としての魅力を発信し、ブランドイメージの確立を目指します。

6. 開館時間・休館日

周辺施設の状況、曜日や季節、イベントや展示スケジュールなどを考慮し、開館時間を柔軟に設定できるように検討します。夜間利用を想定し、有料エリアと無料エリアの動線計画、管理区分を設定します。また、休館日における施設の一部解放も検討します。